



人権・同和教育だより 第2号

1学期人権・同和教育まとめ

平成27年9月7日

1学期の終業式は、台風とともに前日に吹き飛ばされてしまいましたので、遅くなりましたが、今回は1学期の取り組みと生徒の感想特集を組みました。

♣人権・同和教育DVD鑑賞会「世界の果ての通学路」

6月5日の総体特別時間割に1時間いただき、全校で「世界の果ての通学路」を鑑賞しました。これは、サバンナを命がけで通学するケニアの兄妹、兄の車いすを押す弟たちが奮闘するインド、馬で通学するアルゼンチンの兄妹、4時間の山道を歩くモロッコの女の子たちのドキュメンタリー映画です。「そこまでして行く学校って何だろう?」自己の環境や学校の意味について改めて考えたことが頼みました。感想のキーワードは、思いやりと感謝です。

<1年生>

- ・インドの弟達は、兄の車いすをまったく嫌がらずに押していて、学校では同級生たちが教室まで運んでくれて、兄はすごく愛されているなと思った。
- ・山道の危険は注意次第でどうにかなるけど、野生動物はそういうわけにはいかないので、ケニアの通学路はとても困難だと思った。
- ・学校に行きたくないなということが多いけど、最初はみんなに危ないのに学校に行きたいのが分からなかった。子どもたちは夢を持っていると知って、自分が甘えすぎていたのかなと思った。
- ・安全に通学できるのは、道路を整備する人がいてこそなんだと実感した。貧しい国では道なき道を、最悪の場合死んでしまう危険を伴って通学していて、僕たちは幸せな環境で生きていると思った。
- ・兄が妹のことを考えたり、足を痛めた友達の足をさすったり、弟たちが兄の車いすを楽しげに押したり、みなお互いを気づかいあってとても優しいな思った。

<2年生>

- ・学校に通うのは自分のためだと思っていたけど、それ以上に誰かのためでもあると気づいたので、学校に通う意味を考え直そうと思った。
- ・どの子どもも、勉強をやらされているのではなく、自分の意思で勉強したいと思っていた。
- ・自分にとってのあたり前のこと、外国では普通じゃない。その差は何なんだろう。自分の夢を叶えるために頑張ることと、周りの人を大切にすることがどういうことが分かった。
- ・すぐ親に乗せてもらおうとか、授業が分からないといって、わがままだったなと思う。自分で努力して解決できることはたくさんある。
- ・みんなに遠い道のりでも、学校が面倒くさいとか、勉強したくないと言っている子はいなかった。私は、学校が近くて勉強できる環境にあるのに、あの子ども達ほど勉強したいと思ったことはなかったので、勉強したり友達と話したりできることがあたり前と思わないようにしたい。

<3年生>

- ・命を危険にさらしてまで行くほど学校は大切なところだと気づいた。
- ・学校は誰もが平等にいけるものだと思っていたが、自分の国や家族など様々な条件がかみ合ってこそ通えるのだと気づいた。
- ・どんな危険があっても、親は子どもを学校に行かせたいんだな。
- ・日本ではほとんどの人が行きたいより行かされている感じだと思うけど、この人たちはキラキラしていてちゃんと目標を持っていましたのでうらやましく思った。今の私には曖昧な目標しかないので、この人たちのようにまっすぐ何かを見てみたい。
- ・私たちから見たらどこが道なのか、どの方角なのか分からぬ環境の中を、兄妹が走る姿が心に残った。過酷な通学路であるからこそ、無事到着してからの勉強や友達が人一倍楽しく感じられるのだろう。
- ・大人たちができなかったことや夢を子どもたちは背負っていたので、学校に通うことは大人の希望もあると思う。

♣人権・同和教育研究授業

今学期は、公開授業としてご案内した「人権・同和教育をふまえた教科指導」の研究授業と、毎学期取り組んでいる人権・同和教育HRの2通りの研究授業を行いました。そのため人権・同和教育HRは、7月2日~10日にかけて各クラスで順次実施されました。

1年生は「ちがいのちがい」で差別と区別のちがいについて、また2年生は、部落差別の始まりについて考えました。また3年生は模擬面接をとおして就職差別について考えました。

<1年生>

* 話し合いによって考え方の多様性に触れたことにより、異なる視点からの見方からを知り、自己の独善性と異なる意見を尊重する大切さに気づいた。

- ・ひとつの違いでも見方によっていくつかの違いがあるということに気が付いた。またひとつの違いと思うのも思わないのも次第だと思った。
- ・皆の意見をあらためて聞くと、いろいろな考え方があって考え方によって自分が×と思ったことも○でもおかしくない、なるほどと思うことがたくさんあって、おもしろかった。
- ・みんな意見が違っていて自分には考え方かなかった意見が聞けた。
- ・人それぞれ考え方方が全然違うことが分かったので、これからはちゃんと他の人の意見を聞いてみたいです。
- ・こんなに自分の意見を言ったのは初めてだった。差別がどういうものか良く分かった気がしました。肌の色や性別などで人を決めつけるのは良くないと思いました。
- ・一人一人意見が違ったので、違う視点からも考えることができました。何事も正解がないことや人それぞれ違いがあって良いことだと分かりました。
- ・人それぞれの個性はあってもいいし、大切なことだと思った。自分と相手の意見がちがっても、1人の個性として受け止めたい。

<2年生>

* 子どもたちはいじめや差別がどう簡単くならないことを知っている。しかし、過去と現在の人々の意識の違いを知り、どうにか無くそどういう気持ちを未来へ受け継ぐことの大切さも分かっている。

<3年生>

* 人のことを自分で勝手に判断してはいけないとわかった。

* いじめや差別をしてはいけないし、させてもいけない。それを見て見ぬふりをしたり、それを許してもいけないと思いながら生活しています。

* 物事に対して容易に線引きせず、根拠をもって自分で考えていく必要があると感じた。

* 絶対にその人が自分や他の人と違うからといって、差別したりせずに、その人の本質を見て関わったい生活してみたいと思いました。

* こういった問題はなくならない方が可能性が高いと思われます。良い方向に導くのは私たち子どもが受け継いでいくしかないと思いました。

* 清めの塩などの習慣の中で、自然と穢れなどにつながっていることに気づきました。

* 私は、いじめや差別は、自分のことしか考えていない、自己中心的な人がやっているのかな、と思いました。江戸時代の差別をみても、自分たちがコワイと思っていることを、他人になすりつけているようにしか、私には見えなかったからです。もっと他人のことを考えて生活するなら、このようないじめはなくなると思います。

<3年生>

* 不安な面接を前に、生徒自身が気をつける以上に企業への徹底が図られるべきだという声が多数あがった。

* 不適切な質問に対する対処など今まで考えたこともなく、その必要性を感じた。「就職差別につながる主要14項目」を頭に入れ、思い切って面接ができるようにしたい。

* 不適切な質問に対して、答えなくてもマイナスにならないと聞いて安心しました。

* 就職差別につながる質問をした企業に、もう少し厳しい対応をしてほしい。

* 会社側も悪気があって聞いたわけでなくとも、14事項のことは知っておいてほしい。

* 自分も人のことを家族構成や宗教などで差別せずに誰でも平等に接することができるようにならない。

* 不適切な質問を自分で判断し、自分の思いや意気込みをしっかりアピールできるようにしたい。

